

令和6年5月10日

環境大臣 伊藤信太郎 様
文化庁長官 都倉俊一 様
海鳥繁殖島嶼が所在する都道府県知事 様

一般社団法人日本鳥学会
鳥類保護委員会
委員長 澤祐介

海鳥の集団繁殖地における外来哺乳類対策を求める要望書

日本鳥学会は、鳥学の発展および鳥類保全への学術的貢献を目的とする団体です。標記の件につきまして、鳥類保全の見地から、以下の要望を申し述べます。

記

海鳥は海洋生態系の中で多くの海洋生物を捕食する重要な高次捕食者です (Brooke 2004)。また、海で採食し陸地で繁殖するので、海から陸へフンや死体などとして栄養素を供給することで島での特異な植生や陸上生態系を支える、逆に、繁殖地に供給した栄養素が雨などにより再び海岸に戻ることで沿岸海洋資源の生産性上昇をもたらしてくれる、海洋・陸上をつなぐ生態系の重要な構成員です (亀田 2007、Kazama 2019)。また、海鳥繁殖地は、環境教育の素材や観光資源となるなど、文化的な生態系サービスをもたらしてもくれます。

一方で、離島で集団繁殖する海鳥は人間活動に起因するストレスに対してとても脆弱です。海鳥はもともと地上性哺乳類などの外敵がいなかった離島などで繁殖しており、そのため、こうした外敵に対抗する行動・生態的特性を進化させていません (Townsend *et al.* 2006、Hilton & Cuthbert 2010)。我が国において、多くの海鳥種の個体数が、特に離島で繁殖する個体群においては、減少傾向にあります (環境省自然環境局生物多様性センター 2021、別表・別図)。その原因は複数ありますが、直接的で深刻な原因は、ドブネズミ、クマネズミ、イエネコ (主にノネコ) などによる成鳥、卵、雛の捕食とそれに伴う攪乱であることがわかってきました (武石 1987、橋本 2011、岡 2019、風間ら 2020、環境省自然環境局生物多様性センター 2021)。特に、成鳥の捕食が継続した場合には、短期間で繁殖地を消滅させてしまう危険性があります (Dias *et al.* 2019、川上 2019)。また、間接的な原因としては、アナウサギやヤギによる植生の過度な食害や踏圧による環境破壊が報告されています (環境省中部地方環境事務所 2019、鈴木ら 2019)。これらの動物は当該島嶼にはもともと生息しておらず、人が意図的に又は意図せずに持ち込んだ外来種 (外来哺乳類) であり、その根絶が必要と考えます。これらの外来哺乳類による海鳥被害は、個体

数の少ない固有種や絶滅危惧種に対してだけでなく、数十万羽から数百万羽もが繁殖しているオオミズナギドリやコシジロウミツバメのような海鳥であっても、急激な個体数減少が起こる危険性が常に存在していることに留意する必要があります。

外来哺乳類の中でも多くの島で広く影響を与えると考えられるのはドブネズミ、クマネズミ（以下「外来ネズミ類」）で、環境省はこれまでにユルリ・モユルリ島のドブネズミや、小笠原諸島聳島などでのクマネズミの根絶に成功し、その後、海鳥の繁殖個体数の増加が確認されています（橋本 2011、環境省釧路自然環境事務所 2016、環境省自然環境局生物多様性センター 2019、鈴木ら 2019）。さらには石川県七ツ島、大島のアナウサギ、小笠原諸島のヤギ（東京都による）の根絶にも成功しています（環境省中部地方環境事務所 2019、鈴木ら 2019）。離島における海鳥の集団繁殖地に対する外来哺乳類根絶は、最も効果的で実現可能な対策であると考えます。しかし、環境省モニタリングサイト 1000 海鳥調査地に限っても、全 30 サイト（81 島）の内、23 サイト（31 島）もの島嶼で、外来ネズミ類の生息が記録されていますが、このうち駆除対策がとられているのは 4 サイト（6 島）にとどまり、他の多くの島嶼では外来ネズミ類駆除や保全に向けた実質的な調査・研究はほとんど行われていません（佐藤 2022）。生物多様性の損失を止め、反転させ、回復させるネイチャーポジティブの考え方を実践するための「昆明・モンリオール生物多様性枠組（2022 年 12 月採択）」では、そのターゲット 6 に「特に島嶼などの重要度の高い場所における侵略的外来種の根絶又は管理によって、侵略的外来種による生物多様性と生態系サービスへの影響を除去、最小化、低減及び、又は緩和する」（環境省仮訳）と記されています。それに基づいて我が国でも「生物多様性国家戦略 2023-2030（2023 年 3 月閣議決定）」の行動目標として、島嶼や国立公園等において、生態系へ悪影響を及ぼしている外来種について、捕獲などの防除事業を実施する旨が記されています（参考資料参照）。ここで我々が提案する離島での外来哺乳類根絶による海鳥の集団繁殖地保全は、「生物多様性国家戦略 2023-2030」の具体的対策として位置付けられると考えます。さらに、同戦略の都道府県版においても、同様に外来哺乳類根絶による海鳥の集団繁殖地保全の施策の実施が期待されるところです。

このように、離島の海鳥の集団繁殖地でのモニタリングと外来哺乳類対策の必要性は高く、「生物多様性国家戦略 2023-2030」が閣議決定されたこの機会に、以下の事業をご検討いただけますよう要望いたします。

1) 海鳥繁殖島嶼での継続的なモニタリング

環境省ではモニタリングサイト 1000 島嶼（海鳥）調査が行われ、主たる海鳥繁殖地での貴重な情報が収集されており、ご尽力に大きな敬意を払うものです。一方で、同調査の対象島嶼は日本の海鳥繁殖地の全てを対象とするものではなく、たとえば、「マリーン IBA 白書」（佐藤ら 2016）に記載されているものの、モニタリングサイト 1000 では調査が実施されていない、七ツ島や紀伊長島や烏帽子島や草垣群島など重要な海鳥繁殖地があります。国、都道府県の自然公園地域や鳥獣保護区や天然記念物指定地域に該当する島嶼や天然記念物指定種の生息する島嶼でも、行政による海鳥の繁殖数調査や外来

哺乳類の調査が行われていない場所が見られます（佐藤 2022）。環境省のモニタリングサイト 1000 事業の継続に加え、それに含まれていない海鳥繁殖島嶼での調査も、国、都道府県により実施されることを要望いたします。

2) 外来哺乳類の根絶及び侵入防止対策の実施

海鳥の外敵、特に外来ネズミ類の生息が確認された島嶼については、国、都道府県の行政は特別な注意を払い、外来ネズミ類種の同定及び生息状況把握、海鳥の繁殖成功率調査及び被害実態把握、海鳥保全方針の策定と実施（外来ネズミ類の根絶又は低密度化事業など）を進めていただくよう要望します。また、外来ネズミ類以外の外来哺乳類についても、繁殖海鳥と外来哺乳類の生態特性に応じて、詳細な現状把握、減少要因の解明、具体的な保全策の検討と早急な根絶の実施が望まれます。なお、これらの保全策の検討・実施にあたっては、幅広い関係者間の協力がかせません。また、駆除・排除対象種以外の生物及び生態系への影響回避の検討も必要とされます（Howald *et al.* 2007）。外来哺乳類がまだ侵入していないが人間の上陸が頻繁である島嶼においては、主要な侵入経路となる船着場周辺で集中的に侵入防止対策をとることで、低コストで効率的な対策が可能になると考えられ、その実施も望まれます。

【添付資料】

別表：主な海鳥集団繁殖地での個体数の減少とその要因

別図：個体数の減少が著しい海鳥の主な集団繁殖地

参考：「生物多様性国家戦略 2023-2030」の行動目標からの抜粋

【引用文献】

Brooke, M. de L. 2004. The food consumption of the world's seabirds. *Proc. R. Soc. Lond. B (Suppl.)* 271, S246-S248.

Dias, Maria P., Rob Martin, Elizabeth J. Pearmain, Ian J. Burfield, Cleo Small, Richard A. Phillips, Oliver Yates, Ben Lascelles, Pablo Garcia Borboroglu, & John P. Croxall. 2019. Threats to seabirds: a global assessment. *Biological Conservation* 237: 525-537.

橋本琢磨. 2011. クマネズミ. 山田文雄・池田 透・小倉 剛 (編) 日本の外来哺乳類-管理戦略と生態系保全. pp.351-376. 東京大学出版会, 東京.

Hilton, Geoff M. & Richard Cuthbert. 2010. The catastrophic impact of invasive mammalian predators on birds of the UK overseas territories: a review and synthesis. *Ibis* 152: 443-458.

Howald, Gregg C., Josh Donlan, Juan Pablo Galvan, James C. Russell, John Parkes, Araceli Samaniego, Yiwei Wang, Dick Veitch, Piero Genovesi, Michel Pascal, Alan Saunders, & Bernie Tershy. 2007. Invasive rodent eradication on islands. *Conservation Biology* 21: 1258-1268.

亀田佳代子. 2007. 陸上生態系と水域生態系をつなぐもの. (財)山階鳥類研究所(編) 保全鳥類学. pp.167-189. 京都大学学術出版会, 京都.

- Kazama, Kentaro. 2019. Bottom-up effects on coastal marine ecosystems due to nitrogen input from seabird feces. *Ornithological Science*. 18: 117-126.
- 環境省中部地方環境事務所. 2019. 国指定七ツ島鳥獣保護区内におけるアナウサギの根絶について. 2019年5月21日報道発表.
- 環境省釧路自然環境事務所. 2016. 国指定ユルリ・モユルリ鳥獣保護区保全事業実施結果. 環境省釧路自然環境事務所, 釧路.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2019. 平成30年度モニタリングサイト1000海鳥調査報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 環境省自然環境局生物多様性センター. 2021. モニタリングサイト1000小島嶼(海鳥)調査2004-2018年度とりまとめ報告書. 環境省自然環境局生物多様性センター, 富士吉田.
- 川上和人. 2019. 小笠原諸島における攪乱の歴史と外来生物が鳥類に与える影響. *日本鳥学会誌* 68(2): 237-262.
- 風間健太郎・風間麻未・沖山 幹・佐藤夕夏. 2020. 礼文島トド島におけるノネコの確認. *利尻研究* (39): 97-98.
- 岡 奈理子. 2019. 御蔵島の世界最大のオオミズナギドリ繁殖集団を激減させたノネコの影響. *森林野生動物研究会誌* 44: 65-72.
- 佐藤文男. 2022. 日本の海鳥の現状と保全の課題 -環境省モニタリングサイト1000海鳥調査から-. *山階鳥類学雑誌* 54: 3-53.
- 佐藤真弓・山本 裕・岡本裕子・葉山政治. 2016. マリーンIBA白書 海鳥から見た日本の重要海域. 95 pp. *バードライフ・インターナショナル東京*, 東京.
- 鈴木 創・堀越和夫・佐々木哲朗・川上和人. 2019. 小笠原諸島聳島列島におけるノヤギ排除後の海鳥営巣数の急激な増加. *日本鳥学会誌* 68: 273-287.
- 武石全慈. 1987. 福岡県小屋島におけるカンムリウミスズメの大量斃死について. *北九州市立自然史博物館研究報告* 7: 121-131.
- Towns, David R., Ian A. E. Atkinson, & Charles H. Daugherty. 2006. Have the harmful effects of introduced rats on islands been exaggerated? *Biological Invasions* 8:863-891.

【連絡先】

一般社団法人日本鳥学会
鳥類保護委員会委員長 澤祐介
〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115
山階鳥類研究所気付
電話番号：04-7182-1107
Email : sawa@yamashina.or.jp

別表：主な海鳥集団繁殖地での個体数の減少とその要因

Table with columns: 都道府県, 島名, 指定状況, 種, 繁殖鳥数(親鳥の数で表示), 個体数に関する出典, 備考, 繁殖阻害要因, 繁殖阻害の典拠, 名前, モニタリング1000の調査対象, 営巣数もしくはつがい数, 個体数, コメント, 過去の最大数, 備考. It lists various bird species and their nesting sites across different prefectures in Japan, detailing population trends and threats.

引用文献

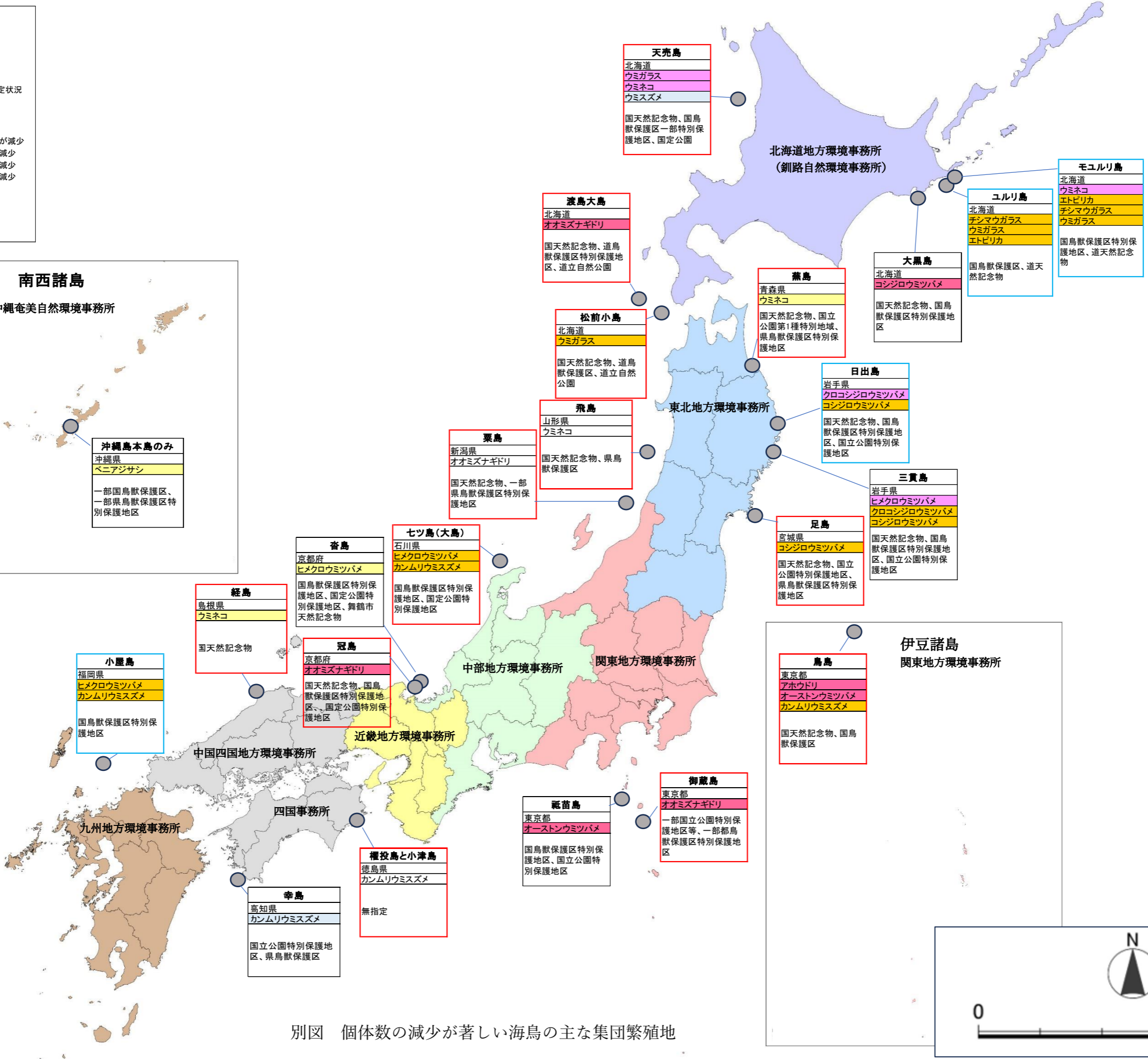
- 1 重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト1000)海鳥調査2期とりまとめ報告書, 2015, 環境省自然環境局生物多様性センター
2 ①平成26年モニタリングサイト1000海鳥調査報告書, 2015, 環境省自然環境局生物多様性センター
3 Status of Seabirds Breeding in Hokkaido, 2002, Yuichi Osa & Yutaka Watanuki, 山階鳥学誌33:107-141
4 オオミズナギドリの繁殖鳥と繁殖個体数規模, および海域, 表層水温との関係, 岡奈理子, 2004, 山階鳥学誌35:164-488
5 日本の天然記念物, 1995, 講談社
6 福岡県小豆島におけるカムルリウミスズメの大量斃死について, 1987, 武石全慈, Bull.Kitakyuusyu Mus.Hist7: 121-131
7 新たに確認された徳島県牟岐カムルリウミスズメ繁殖地での繁殖個体数規模の推定とネズミ類侵入状況確認, 2020, 海鳥保全グループ(武石全慈・Darrell WHITWORTH・Michael PARKER・大槻郷子, 自然保護助成基金助成成果報告書29
8 渡島大島におけるオオミズナギドリ繁殖個体群の現状と保全への指針, 2001, 小川春雄・笠原三郎, 北大水産学報52(2):71-93
9 山形県飛鳥のウミネコ繁殖地のネコによる被害状況, 2016, 富田直樹・佐藤文男・岩見恭子, 山階鳥学誌47:123-129
10 国指定ユルリ・モユルリ鳥獣保護区保全事業実施結果, 2016, 環境省創路自然環境事務所
11 新潟県鳥島におけるイエネコ等によるオオミズナギドリ雛の捕食, 2014, 塩崎達也・白井正樹・大杉雅人・山本麻希・依田憲, 日本鳥学会誌63(1):75-78
12 ウミガラス保護増殖検討会 国指定天売島鳥獣保護区ドブネズミ生息状況等調査業務, 2019, 自然環境研究センター・農薬学園大学, EnVision環境保全事務所
13 天売島のネコ問題, 2020年, 「人と海鳥と猫が共存する天売島」連絡協議会HP
14 令和元年度国内希少野生動物種(アホウドリ)保護増殖事業報告書, 2020, 山階鳥類研究所
15 日本鳥類大図鑑Ⅲ, 1978, 清塚幸保
16 マリンIBA白書 海鳥から見た日本の重要海域, 2016, パードライフ・インターナショナル東京
17 船倉島・七ツ島の自然, 1986, 石川県環境部
18 平成20年度セツ島鳥類生息状況調査業務, 2008, 日本野鳥の会石川支部
19 2019年カムルリウミスズメ調査報告書, 2020, 海鳥保全グループ
20 御蔵島における外来種クマネズミ及びドブネズミの生息状況, 2019, 安積紗羅々, 岡奈理子, 巨悠哉, 哺乳類科学59(1):85-91
21 いしかわレッドデータブック2020, 2020, 石川県, https://www.pref.ishikawa.lg.jp/size/reddata/rb2020/rb_2020.pdf.html
22 平成29年国指定セツ島鳥獣保護区保全事業実施業務報告書, 2018, いであ株式会社
23 モニタリングサイト1000小豆島(海鳥)調査報告書2004-2018年度とりまとめ報告書, 2021, 環境省自然環境局生物多様性センター

凡例

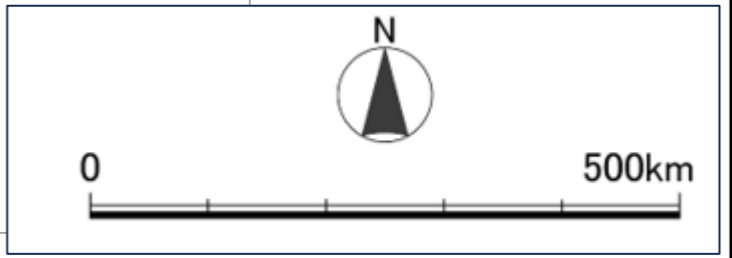
御蔵島	→島の名称
東京都	→都道府県名
オオミズナギドリ	→主な減少種
一部国立公園特別保護地区等、一部都鳥獣保護区特別保護地区	→保護区の指定状況

種名	これまでに数十万羽以上の個体が減少
種名	これまでに数万羽以上の個体が減少
種名	これまでに数千羽以上の個体が減少
種名	これまでに数百羽以上の個体が減少
種名	残りが1~数羽まで減少

ネズミ・ネコが確認されている島
ネズミの駆除が済んでいる島



別図 個体数の減少が著しい海鳥の主な集団繁殖地



参考 「生物多様性国家戦略 2023-2030」の行動目標からの抜粋

〈具体的施策〉 1-3-41 生物多様性確保上重要な地域における特定外来生物等の防除

奄美大島において希少種への脅威となっているマングースについて、根絶に向け捕獲圧をかけ続けるとともに、根絶を確認する手法の開発を行い、根絶を達成させる。その他、小笠原諸島や沖縄島等、生物多様性確保上重要な地域における特定外来生物等の防除事業を進める。【環境省】

(目標)奄美大島のマングース根絶確認について、2025 年度までに実施

〈具体的施策〉 1-3-42 国立公園等における外来種対策

国立公園において、生態系へ悪影響を及ぼしている外来種について、捕獲などの防除事業を実施する。また、悪影響を及ぼすおそれのある外来種について、侵入や悪影響を未然に防ぐための種の取扱方針の策定やリスク評価手法の検討を行うとともに、特別保護地区などにおける外来種の放出等の規制を行う。また、国立公園等で行われる緑化に当たっては、「自然公園における法面緑化指針」に基づき、遺伝的かく乱を防止するため、地域性種苗の利用等の必要な配慮を行うとともに、外国産在来緑化植物の利用は行わないものとする。【環境省】